

番号・課題名	3 三宅村営牧場被害状況調査 ～噴火後の状況と今後の三宅島復旧・復興に向けて～
所属・氏名	三宅分場 ○川手秀一(現 応用技術部) 東京都農業振興課、三宅支庁産業課、中央農業改良普及センター三宅支所、 三宅村農林水産業整備担当課

〔目的〕

平成12年6月26日に発生した三宅島雄山の火山活動は、8月19日の大噴火、29日の火砕流を経て9月2日から4日の全島民避難以降、観光客の渡島は許可されていない。

三宅島の産業は、観光業と一次産業抜きでは語ることができない。特に村営牧場は、最盛時には内地酪農家の育成牛(受託牛)を始め村有牛など約100頭を飼育し、ポニー、ヤギ、ウサギ、鶏などの小動物とのふれあい施設や畜産展示資料館など観光の目玉となるスポットが点在していた。

噴火以降、村営牧場の被害状況調査を2回(13年7月25日、14年7月23日)実施したが、林道の寸断、火山ガスや泥流の発生などで十分な調査はできなかった。

そこで、今後の三宅島産業の復旧・復興の一助とするため本格的な牧場施設・草地などの被害状況調査を、東京都と三宅村共同で実施したのでその概要を報告する。

〔方法〕

1 行程 平成14年8月26日(月)～8月27日(火)

2 調査員 1班 東京都 塩谷、小山 三宅村 名和、北川
2班 東京都 川手、松本、三尾 三宅村 平松、西山

〔結果〕

全体の状況は、噴火後の時間経過と共に悪化の一途を辿っている。施設の一部は泥流に覆われ、一部は噴石に破壊され、草地は泥流による深い浸食を受けるなど、ほぼ壊滅状態であった。樹木もほとんどが火山性ガスにより、枯死していた。

調査中、風下に当たる場所では二酸化硫黄(5ppm程度)を検知し、目、鼻や喉の痛みを感じるなど、火山性ガスの噴出も続いていた。

牧区別の被害状況は別紙に詳述してあるが、噴火前の状態で残っている場所は皆無である。

〔今後の課題〕

牧場の状況は、今後時間の経過と共に更に悪化することが予想され、元の状態に戻すには莫大な時間と費用を要するであろう。将来の村営牧野の方向性は、三宅村牧野管理運営委員会(三宅分場長もメンバーの一人)を中心に検討していくことになる。

三宅島全体の産業振興は、「観光と農業のリンク」という形で以下の方策(私見)が考えられるが、実施に当たっては関係各場所との綿密な計画立案と連携が必要である。

- 1 養鶏を振興する。比較的初期投資が少なく、鶏肉・鶏卵は蛋白源として、排泄物は有機質肥料として極めて有用である。アシタバや海草を給与し、三宅島特産品として観光客へ提供したり、土産物とすることも可能である。
- 2 観光牧場の機能を持った拠点を創設する。山林から海岸線までを開拓し、①動物とのふれあい施設、②搾乳施設、③牛乳・乳製品処理加工施設、④肉製品加工施設、⑤堆肥処理施設などを噴火被害の軽微な平地(所有地の有効活用も含めて)に建設し、新規就農希望者受け入れや島民の雇用対策、人材活用に役立てる。また、島内産の食材を学校給食に取り入れて児童・生徒の情操教育の一助とする。
- 3 預託牛事業を復活させる。都内酪農家は自家育成の困難なケースが多く、三宅村での預託再開を望む声もある。再開する場所としては被害の軽微な民間牧場の有効活用を図るなど、幅広く検討することも必要である。道路を整備して観光バスのコースに乗せる。牛のいる美しい景観は、観光客へのアピール度も高い。

[図表]

表1 三宅村営牧場被害状況一覧

牧区名	主な施設名	降灰・泥流の状況	草地等の状況
第1牧区	家畜避難舎 飼料倉庫 水飲場、牧柵	家畜避難舎は噴石により倒壊 牧区全体 降灰厚約20cm, 伊ヶ谷林道側の出口に深さ約1mの浸食部, 家畜避難舎付近に約120cm 泥流堆積	泥流が流失した地表部にススキが点在する程度
第2牧区	家畜避難舎 飼料倉庫 水飲場、牧柵	牧区全体 降灰厚約10～30cm 部分的に30～70cm 泥流堆積	牧草類は皆無、野シバが点在する程度
第3牧区	水飲場、牧柵	牧区全体20～150cm 泥流堆積	伊ヶ谷林道側はススキの繁茂が目立つ 笠地側はススキが確認される程度
第4牧区	木製牧柵	牧区全体30～120cm 泥流堆積 泥流による浸食が目立つ	牧草類は皆無、野シバが点在する程度
第5牧区	家畜避難舎 パドック 水飲場、牧柵	牧区全体30～200cm 泥流堆積 泥流による浸食が目立つ	牧草類は皆無、野シバが点在する程度
第6牧区	水飲場、牧柵	牧区全体 降灰厚約15～70cm	牧草類は皆無、野シバが点在する程度
第7牧区	水飲場、牧柵	牧区全体 降灰厚約20cm	植生は確認できない
第8牧区		火山性ガスと天候不良で未調査	
第9牧区	監視舎、家畜避難舎、飼料倉庫、水飲場、牧柵	牧区の一部 降灰厚約10cm 牧区全体10～30cm 泥流堆積 深さ約5mの浸食部	植生は確認できない
第10牧区		林道崩壊のため未調査	
第11牧区	水飲場、牧柵	牧区の一部 降灰厚約10cm 深さ約10mの顕著な浸食部	植生は確認できない
第12, 13, 14牧区		林道崩壊のため未調査	
ふれあい広場	展示資料館 ふれあい施設 休憩施設 貯水槽	展示資料館は焼失、大きな噴石あり 牧区全体10～30cm 泥流堆積 広場内約200cm 泥流堆積 ふれあい施設は、噴石による被害甚大	部分的にススキが点在する程度